

地小の子どもの学力・学習のようす

平成26年度全国学力・学習状況調査結果より

1 はじめに

地頭方小学校では、今年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、学力向上と学習状況の取組について説明するため、このリーフレットを作成しました。

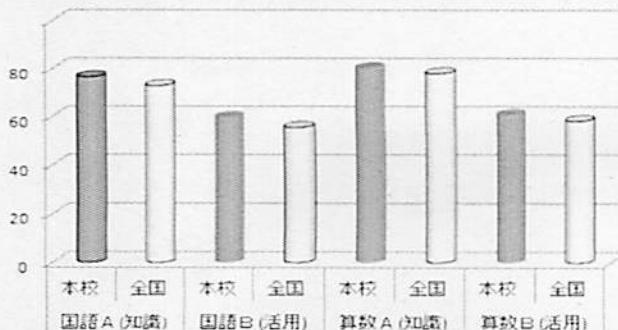
学力には「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲・態度」等の様々な側面があります。今回の調査結果は学力の一部分を示したものであり、国語・算数の「教科調査」とともに、学校と児童に対しての「質問紙調査」の結果も併せて考えることが大切です。

本校は、学校教育目標「目をかがやかせ まごころこめて」、重点目標「進んで がんばる」のもと、3つの自慢「授業自慢、あいさつ自慢、歌声自慢」に重点的に取り組んでいます。

調査結果を踏まえ、本校の子どもの学力と学習状況の実態を分析し、これまでの取組を改善することで、地小教育のいっそうの充実を図っていきます。

このリーフレットが、保護者・地域の皆様と学校とが、子どもの学力と学習状況についての認識を共有し、各々の立場で子どもの「共育」にあたる契機となることを願っています。

2 教科調査（国語・算数）の概要



全ての教科調査で全国平均を上回りました。「伝え合いを考えを深める授業」を目指して取り組んできた成果が、とりわけ国語で表れました。

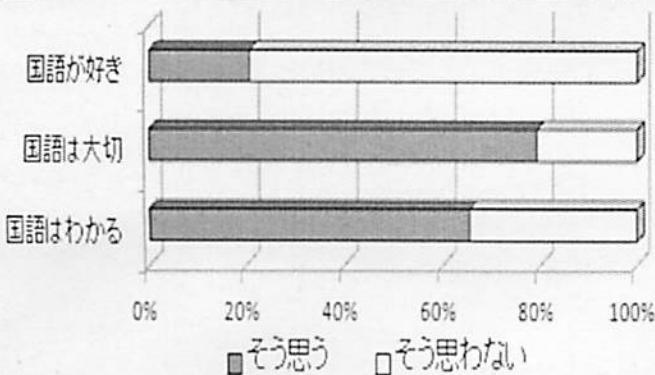
今後は、知識を「活用」できる子どもを育てる、楽しい授業を考えていきます。

3 質問紙調査（学校）と学力との関係

- 自分の考えを相手に伝える。
- 相手の考えを最後まで聞く。
- 調べたり書いたりする宿題を出す。
- PTAや地域が学校の活動に参加する。
- 質問紙調査(学校)のこれらの項目で「当てはまる」学校ほど教科調査の平均正答率が高いという結果が出ています。

- 今後、地頭方小学校では…
- 話すことと聞くことに今後もさらに力を入れ「授業じまん」を目指します。
 - 本読みやドリルと共に、学年に応じて自主学習を課し家庭学習の質を高めます。
 - 保護者や地域と連携し「好きです地小・やっぱり好きです地頭方」の子にします。

4 教科調査（国語）から見られる良さと課題



本校の6年生の子どもたちは、8割の子どもが国語が好きでないと感じています。一方、7割前後の子が国語は「大切である」「わかる」と感じています。

今回の学力状況調査において、A問題（知識）、B問題（活用）とともに、全国や県より上回っています。大切であると感じていることで学習への取り組みは高いものの、なかなか国語が好きになれないということが伺い知れます。

特に

- ・漢字の読み書きや表現の仕方を捉えるといった言葉に関わる学習が定着しています。
- ・国語辞典などの資料を基に、言葉の意味と使い方を考える学習が定着しています。
- ・話し合いの観点に基づいて情報を関係づけたり、観点を整理する学習が定着しています。
- ・書かれた内容を関係付けながら、課題にあたるものを探せる学習が定着しています。

しかしながら、課題としても挙げられるものがあります。以下の問題を御覧ください。



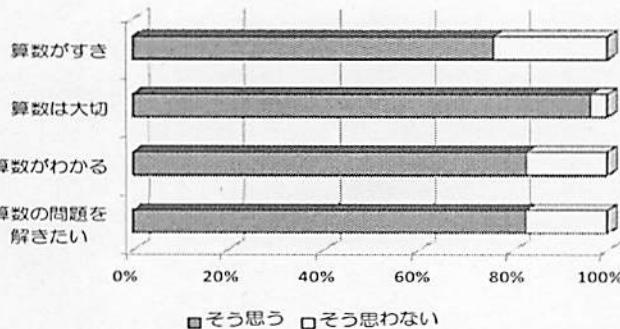
この問題において6年生の正答率に低い傾向が見られました。これは「条件に沿って自分の考えをまとめて書く力」が弱いことが挙げられます。

また、「分かったことを整理し、それらを関連づけながらまとめて書く」ことにも同様のことがありえます。これらのことから、本校の6年生は「書く」ことが課題であるととらえます。そこで、

【課題を解決していくために、こんなことに取り組んでいきます】

- ・一人一人が根拠を明確にして自分の考えをもって話し合えるように、個人学習（一人学び）での書く活動を充実させていきます。
- ・聴く力（話を理解し応じる力）、話す力（考えを相手に伝える力）を高め、伝え合いを活性化させ、「深く考え、表現することが楽しい」と実感できる授業を展開していきます。
- ・学習の中で「たしかめる」時間を持ち、一時間の学習で何を学んだか子ども自身が理解できるようにしていきます。

5 教科調査（算数）から見られる良さと課題



本校の6年生の子どもたちは、7割以上が、算数が「好き」で「大切」で「わかる」し、「問題を解きたい」と感じています。

このように感じている子どもたちですから、今回の学力状況調査において、A問題（知識）、B問題（活用）とともに、全国や県より上回っています。

特に

- ・整数、小数、分数を問わず、計算領域においての学習が定着しています。
- ・公式を使って課題を解決する学習が定着しています。
- ・グラフからの読み取りやグラフの作成などの学習が定着しています。
- ・設問において、無回答が少なく、解決しようと努力している姿が多く見られます。

しかしながら、課題と考えられることもあります。以下の問題を御覧ください。

A

下の図のように、白いテープの長さをもとにじて、赤いテープと青いテープの長さを表しました。

(1) 赤いテープの長さを求める式を、下の 1 から 4 までのなかから 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1 $80 + 0.2$
2 $80 - 0.2$
3 80×1.2
4 $80 \div 1.2$

B

(2) まことさんは、使いやすいはしの長さのめやすについて発表します。

使いやすいはしの長さのめやすは、「一あた半」と言われています。

一あたは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。

一あた半は、一あたを 1.5 倍した長さです。

下の 1 から 4 までのやから、一あた半の長さを表しているもの()を 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

1
2
3
4

1: Hand with fingers spread wide, labeled '0.5 cm'
2: Hand with fingers spread wide, labeled '0.5 cm'
3: Hand with fingers spread wide, labeled '1.5 cm'
4: Hand with fingers spread wide, labeled '1.5 cm'

この2つの問題において、本校の6年生は、全国や県に比べ特に低い傾向が現れています。どちらも、「もとにする量」と「比べられる量」がどちらかを判断して、設問に答える問題です。問題文や説明を図や式に表して考えるための、イメージづくりが、本校の子どもたちの課題であるととらえられます。そこで、

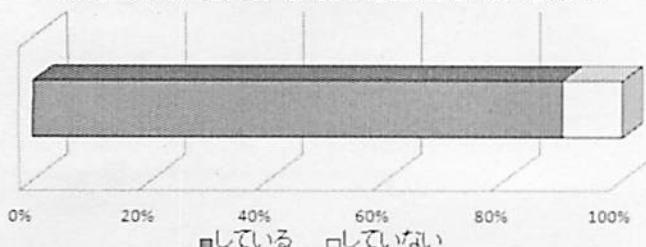
【課題を解決していくために、こんなことに取り組んでいきます】

- ・TT学習（複数の教師が指導にあたる学習）を活用し、個のつまずきを把握し、適切な支援を行っていきます。
- ・一人一人の意見を出し合い、いろいろな考え方触れさせることにより、問題解決に必要なイメージづくりができるようにしていきます。
- ・学習の中で「たしかめる」時間を持ち、一時間の学習で何を学んだか子ども自身が理解できるようにしていきます。

6 質問紙調査（児童）から

① 学習習慣を身につけましょう。

質問（22）家で、学校の宿題をしていますか

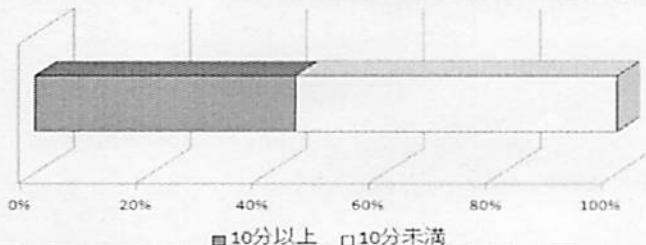


「家で宿題をしている」と回答した子が9割をこえています。学校の宿題も含めて、家庭での学習習慣を身につけることで、学校で学んだことについて一層理解を深め、次の日の授業に積極的に臨むことができるようになります。

◎ 毎日家庭学習をしましょう。◎ 次の日の授業の準備をしましょう。

② 本を読む習慣を増やしましょう。

質問（17）学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

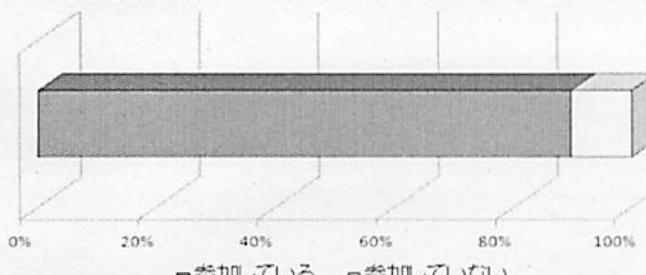


家の読書時間10分未満の子が半数をこえています。「全く読まない」と回答した子もいます。読書は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにします。文章を読む力は、学力の基礎です。

◎ 家庭でも読書の時間を設けましょう。◎ 読んだ本の感想を親子で語り合いましょう。

③ 地域とのつながりを増やしましょう。

質問（29）今住んでいる地域の行事に参加していますか

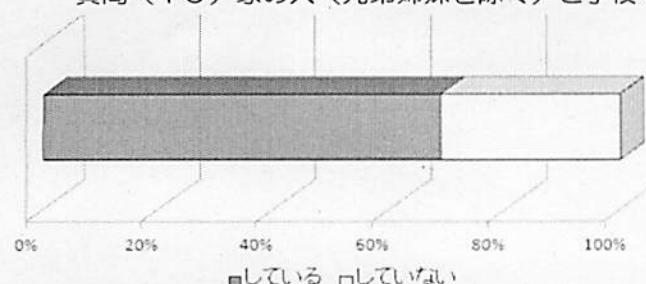


「地域行事に参加している」と回答した子が約9割います。地域とのかかわりの中で、子どもたちは成長していきます。これからも地域行事に積極的に参加し、地域の一員であるとの自覚をもたせていきましょう。

◎ 進んで地域の行事に参加しましょう。◎ 地域の中でのいさつを交わしましょう。

④ 家族との団らんの時間を増やしましょう。

質問（19）家人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。



「学校での出来事を話している」と回答した子が約7割います。家事などの手伝いを通して、気軽に会話を楽しみ、あたたかなふれあいの時間を設けましょう。お茶の間で、親が自分自身の経験を語ったり、子どもの夢や希望に耳を傾けたりして、積極的に子どもと対話し、子どもの心を支えることが必要です。

◎ 家族でのいさつを交わしましょう。◎ 家族で話をする時間を大切にしましょう。